

# 第16回 市民動物園会議

## 会 議 録

日 時 : 平成24年10月29日(月) 16時開会  
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

## 1. 開 会

○事務局（見上円山動物園長） 本日は、お忙しいところをご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、第16回市民動物園会議を開催いたします。

本日、鈴木委員と中山委員から、所用のためご欠席ということでご連絡をいただいております。

## 2. あいさつ

○事務局（見上円山動物園長） それでは、みどり環境担当局長の二木からごあいさつを申し上げます。

○二木みどり環境担当局長 みどり環境担当局長の二木でございます。

お忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

ことは、夏が非常に暑い期間が続きまして、後ほど詳しい話は園長からさせていただきますけれども、上半期の入園者数はかなり厳しい状態になってございます。これを何とか回復したいと思っています。そういう意味では、いい材料としては、7月20日にレッサーパンダの双子の赤ちゃんが生まれております。キン、ギンという名前をつけさせていただきましたけれども、非常にかわいらしい姿が大変好評で、このところ、入園者は増に転化している状況にございます。また、今ごらんいただきましたアジアゾーンが12月12日にオープンということで、これもまた一つの起爆剤としながら入園者増につなげていきたいというふうに考えております。アジアゾーンは、屋外の自然の中にいる動物を、来園者は冬期間に暖かい室内で見えていただく施設になってはいますが、そのほかにも、エネルギーを皆さんに体感していただくという施設でもありますので、環境教育の場として活用していただければなという思いもございます。

これから、我々も勝負をかけていかなければならないと考えております。

きょうも、いろいろな忌憚のないご意見をいただきながら、よりよい動物園運営をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） それでは、これ以降の会議の進行につきましては、金子委員長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 3. 議 事

○金子委員長 きょうは、視察をどうもありがとうございました。おかげで、大分イメージがわいてきたというか、12月12日が非常に楽しみになりました。

それでは、次第に従って議事を進行していきたいと思いますが、予定としては6時までですね。できるだけ円滑に進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、次第1の平成24年度上期来園者状況についてということで、事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） それでは、私からご説明させていただきます。

資料1の上期の来園者の状況でございます。

表の左側を見ていただくと、平成24年度ということで、4月から9月までの合計で51万3,505人ということです。その二つ右に目を移していただくと、23年度は62万2,333人ということで、4月から9月までの時点で約10万人の減、前年比では、率にしまして82.5%という状況になってございます。

この要因ですけれども、平成23年度は、4月1日からホッキョクグマの赤ちゃんの公開をいたしました。それから、4月23日には、は虫類・両生類館がオープンということもございました。さらに、5月から7月にかけてはベビーラッシュでございまして、大型の動物、シンリンオオカミの双子や、ユキヒョウ、マサイキリンといった動物の赤ちゃんを公開したということもございまして、来園者がふえたのかなと考えております。

今年度につきましては、大型動物の繁殖がございませんので、そうした意味での話題性を欠いているために減少しているのかなと思います。

しかし、この表を見ていただきますと、8月は前年度比で94.5%、9月は91.4%ということで、減少幅も大分小さくなってきているところでございます。これは、夜の動物園を集中してPRして、1日当たり1,000人増という結果ではありましたが、そういったことなどによりまして、縮小幅として小さくなってきているのかなと思います。また、この表には書いておりませんが、先週の木曜日の時点で、平成23年度の10月の月間の合計来園者数を上回っております。10月につきましては、昨年度と比べてプラスになります。

この後、10月19日に、まだ時間限定ではありますが、レッサーパンダの双子の赤ちゃんを公開しておりますし、さらに、先ほどごらんいただきましたアジアゾーンのオープンを12月12日に予定しておりますので、これで何とか10万人増を目指します。多分、10月で1万人くらいふえると思いますが、それでも9万人減という状況でございますので、何とか挽回して、さらに冬の魅力もどんどん発信して、来園者増につなげてまいりたいと考えております。

簡単ではございますけれども、資料の説明は以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、来園者につきましてご、質問等がありましたらお願いいたします。

それでは、私から伺います。

この来園者というのは、外国人は分けたりしているのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 分けてカウントはしていません。

○事務局（見上円山動物園長） 園内を回っていますと、ちらちら見かけますけれども、そんなにはという状況です。

○金子委員長 聞きたかったのは、もし、中国からの来園者が多かったのであれば、かなり減っているのかなと思ったのです。

○事務局（見上円山動物園長） 先日、道内の動物園、水族館の園館長会議がありまして、例えば、登別のマリンパークニクスなどは、観光客の方に中国、台湾の方が多いと聞いておりますけれども、そんなに影響はないと聞いております。

○金子委員長 わかりました。区別することも難しいでしょうからね。

○高井副委員長 今までのお話を伺ってきて、だんだん難しいこととできることの違いがわかってきたような気がします。今回、アジアゾーンをつくるのに当たって、アジアゾーンにどのくらい人が入っているかを分けてカウントすることは可能でしょうか。行政評価的には、例えば、10億円をかけて何人入ったという感じに個別になると思うのです。あるいは、そこの何人工かけたなどですね。それは、動物園の論理とちょっと違うということとは私もわかってきて、繁殖するとか、教育とか、別の要素もあるから、単純に施設に来た人だけで物事を図れないことはわかってきたのですけれども、それでも、可能だったりするのでしょうか。

○事務局（影山経営管理課長） これまでの出し方と言うと、前年同月比との比較で何人ふえているかということで、アジアゾーン分の効果の数字を出すことは可能かと思えます。

○事務局（見上円山動物園長） ただ、建物による効果なのかどうかは、それだけではわからないです。やるとすれば、建物のところにある程度人を張りつけてカウントをするということですね。

○野村委員 でも、動物園に来てアジアゾーンに行かないなんてことは考えられませんね。もし、これから先、新しい施設には絶対足を運ぶから、そこだけやるのはむだなような気がします。

○高井副委員長 マーケティングでよくあるのは、後ろにストップウォッチを持った人を張りつけて、滞在時間は何分みたいなのをはかっていって、実際にそこで買ったのかどうかみたいなのところもはかって、それで見るということを小売業界ではやりますけれども、本当はそんなことができるといいのかもしれないのですが、モチベーションとかほかのいろいろな要素もあると思うので、行政評価的にはそういう意見が出るかもしれませんという参考意見として申し上げます。

○事務局（二木みどり環境担当局長） 冬場などに入園されている方が、暖かい施設だということで、滞在時間が結構長くなるかもしれないですね。それは、結構いい材料になると思います。ちょっと工夫した方がいいかもしれません。

○金子委員長 ありがとうございます。

○野村委員 今のことで、前も申し上げたように、冬は寒くて大変という印象が私もずっとあったのです。最近、中央にあるレストハウスも含め、避難場所がものすごくふえているのです。4月の初めにきて、すごくこりたのです。子どもも寒くて、動物を見ないで帰ったということが昔ありました。ですから、アジアゾーンも含め、こんなに暖かいところがあるということを知らない方々も多いと思います。冬こそJRと言うけれども、冬でも動物園という感じで、今なら、人を誘っても、来なければよかったということにはなら

ないと思うのです。

○金子委員長 熱帯雨林館の中は暖かいのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 熱帯雨林ですので。

○野村委員 屋内側は絶対に暖かいと思います。

○事務局（二木みどり環境担当局長） 雪が直接当たらないところであればですね。

○事務局（柴田飼育展示課長） 中は、20度ぐらいにはなっていると思います。

○金子委員長 休めるようなスペースなどはあるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） あります。ベンチもあります。

○金子委員長 それはいいかもしれないですね。

○牧野委員 冬オープンのアピールポイントになりますね。

○事務局（見上円山動物園長） まさに、アジアゾーンで、建物の中から外もゆっくり見られると。

○野村委員 去年の冬に来たときに、ペンギンのえさやりを見ていたのですけれども、すぐゆっくりのえさやりだったので、すぐには虫類館に避難しました。

○金子委員長 では、今、アジアゾーンの話が出ましたので、アジアゾーンについてご説明をお願いいたします。

○事務局（影山経営管理課長） それでは、私から、アジアゾーンの概要についてご説明いたします。

資料2をごらんいただきたいと思います。

先ほど、アジアゾーンの3館のうちの寒帯館と高山館をごらんいただきましたけれども、アジアゾーンは、日本もそうですが、雪が降るところもあれば、年じゅう暑いところもあるということで、地理や気候など、多様性というところがアジアの特徴であると考えております。このアジアの環境の多様性、あるいは、希少種の保存、生息域の保存の大切さを伝えることを目的とした施設でありまして、寒帯館、高山館、熱帯雨林館の3棟から構成する施設となっております。

展示方法につきましては、動物が生息している自然環境をできるだけ再現することによって、動物の本来の生き生きとした行動を引き出すというような展示方法を採用しております。

また、今お話がありましたけれども、屋内の観覧スペースを広く設けまして、屋内からも外の展示場にいる動物をゆっくりとごらんいただけるような施設となっております。

2番目の施設の概要ですが、オープンは12月12日を予定しております。総工費は、予算ベースですけれども、12億8,000万円という予算となっております。寒帯館には、アムールトラとユキヒョウの2種を展示いたします。高山館には、ヒマラヤグマとレッサーパンダの2種を展示いたします。熱帯雨林館には、マレーグマ、シシオザル、クロザル、テナガザル、カンムリシロムク、コツメカワウソ、アジアアロワナ、インドオオコウモリ、マレーバクの全部で9種を展示いたします。この9種のうち、後ろの方の4種の

カンムリシロムク、コツメカワウソ、アジアアロワナ、インドオオコウモリは、今回、新規導入となります。また、一番最後にありますマレーバクは、昨年に展示していた個体が死亡しましたので、それ以来の再導入となっております。

次に、新エネルギーの導入であります。寒帯館には、10キロワットの太陽光発電設備を設置いたします。それから、高山館には、先ほどご説明しましたが、雪冷熱冷房システムを設置いたします。熱帯雨林館には、木質バイオマスを使ったペレットボイラーを設置いたします。

資料の裏側をごらんください。

主な見どころについてでございます。

先ほどもご説明いたしましたけれども、アムールトラの展示では、雪の中、木々の間を悠々と歩く姿を屋内からガラス越しにゆっくりとごらんになることができます。それから、プールがありましたけれども、夏には水浴びする様子をごらんになることができます。

次に、ユキヒョウの展示のところでは、高い岩場を擬岩で再現いたしました。この岩場をユキヒョウが勢いよく駆け上がる様子をごらんになることができます。それから、屋外の展示場では、ユキヒョウの体を下から金網越しにご覧になれるスポットがあります。

図1は、ユキヒョウの展示場です。屋外放飼場を記載しております。

それから、2点目が高山館です。高山館では、ヒマラヤグマが高い丘に登ったり、木登りしている様子をごらんになることができます。夏には水浴びをする様子をガラスの断面から間近でごらんになることができます。

それから、レッサーパンダにつきましては、屋内展示場で来園者の頭上に設けられた渡り木の上をレッサーパンダが行き来する様子、それから、一部ガラス面になっているところがございまして、ガラス面の上を歩く様子や肉球などを下から観察することができるようになっております。

図2が、レッサーパンダの屋内の展示場の様子になっています。

それから、熱帯雨林館です。熱帯雨林館には、哺乳類、鳥類、魚類といった多様な動物を展示いたします。屋内展示場では、熱帯雨林館の雰囲気を感じながら見ることもできます。3棟のうち、唯一の解放型の施設になっておりまして、ここに展示するワウワウテナガザルは「ワウワウ」というふうに声を発しますけれども、そういった動物の鳴き声、音、息づかいが感じられる施設となっております。

また、各所に隠された動物たちの足跡やふん、木の実などのレプリカを探しながら館内を回ることができます。

以上が3館の説明になります。資料を1枚おめくりいただきまして、新たなアジアゾーン魅力について、これからどのように広報していくかという広報事業について資料をまとめてございます。

主に、広報、それから、イベントを活用した広報、最後に内覧会の3本立てでご説明したいと思います。

まず初めに、広報事業ですけれども、そのうちの（１）ポスターデザインの公募プロポーザルについてです。これは、アジアゾーンのPRポスターをつくる時に、プロポーザル方式でポスターを公募いたしました。既に、ポスターのデザインといいますか、相手方を決定いたしまして、今は修正をかけている段階ですけれども、今月中にポスターを作成いたしまして、11月から各所に掲出したいと考えております。プロポーザルにすることで、安い価格でいいデザインのものを採用できたかなと考えております。

それから、一つ飛ばしまして、（３）のチラシの作成です。こちらは、日糧製パンから協賛をいただきまして、無料でアジアゾーンのPRのチラシを作成しているところです。A4判の三つ折りのチラシで20万部作成しているところです。こちらも、11月の初旬から配布などをしていきたいと考えております。

次に、動物園だよりへの掲載です。動物園だよりといいますのは、年に4回、市内の各小学校の全児童分、幼稚園、保育園などで配布している動物の情報が載っていたり、環境のことが載っていたりというような1枚両面のものです。

今、お配りしておりますのは、動物園だよりの最新の9月12日に発行したものとなっておりますが、年に4回発行いたしまして、次回が12月12日の発行になります。ちょうどオープンの日発行となっております、秋号では、表側には、レッサーパンダの赤ちゃんなど個体の情報が載っておりまして、裏には、環境、教育的な要素が載っています。冬号では、裏一面をアジアゾーン特集ということで、アジアゾーンの情報を各小学校、幼稚園などに流していきたいというふうに考えております。

次に、（５）は、広報さっぽろへの掲載です。広報さっぽろの12月号にアジアゾーンのオープンということで、1ページ、特集記事を組んでいただくことになっております。こちらは、12月1日発行となります。

（６）は、シネアド・地下歩行空間での映像広告などですけれども、シネアドといいますのは、映画が始まる直前に広告が流れますが、そのうち、広告がずっと流れて、一旦暗くなって、映画が本当に始まる直前にまた2本ぐらい広告があるのですけれども、そのところで札幌市で広告枠をとっておりまして、そこを動物園で使わせていただくことになりました。

市立大学の協力もいただきながら、PR動画を作成しまして、札幌シネマフロティアになりますけれども、それらの方にPRの動画を流したいと考えております。同様の映像を使って、地下歩行空間でもPRを行いたいと考えております。

また、今、協議中なのですけれども、大通BISSEでも、スペースをお借りして、パネル展示なども行いたいと考えております。

次に、大きな2点目のイベントを活用したPRですけれども、マルヤマクラス、三井アウトレットパーク北広島、イオン発寒店などで、キャラクターのマルヤママンを使ったマルヤママンショーやクイズ大会などを行いながら、アジアゾーンのPRを行いたいと考えております。

直近で言いますと、このほか、11月3日にも、つど一むでコープさっぽろのイベントがございまして、そちらでもマルヤマンショーを行う予定となっております。それから、マルヤマクラスでは、11月11日にマルヤマンショーが入っていますけれども、既に日曜日から、マルヤマクラス文化祭というものをやっております、そちらの中でパネル展ということでアジアゾーンのPRを先行して開始したところでもあります。

それから、(2)が、地下歩行空間でのPRです。地下歩行空間でチラシやノベルティの配布を行いながら、アジアゾーンのオープンを周知していきたいと考えております。

それから、(3)が、アジアゾーンのオープン記念式典です。これは、オープン当日にオープン記念式典を開催することとしております。

裏面に行きまして、(4)アジアゾングランドオープン記念イベントでございまして。前回の市民動物園会議の中でも、アジアゾーンの冬オープンというのは、集客としてはちょっともったいないのではないかなというようなご意見もありました。我々も、冷静に考えますと、アジアゾーンの熱帯雨林館の動物は熱帯の動物ですから、冬場は外に出てきませんので、屋外放飼場は使わないという事情があります。雪解けになって、4月になると、熱帯雨林館の屋外も使うこととなりますので、その時期に合わせて、改めてグランドオープンという形で記念イベントを行いたいと考えております。

次に、大きな3点目の内覧会についてでございます。

まず、マスコミ向け内覧会ということで、既に、先週の金曜日に、報道各社にご覧いただきまして、動物が入っていない状態で内覧会を行っています。動物が入ってからでは見ることのできない動物の入る檻の中にも入っていただきまして、アジアゾーンの魅力を各社に報道していただいたところです。

それから、(2)は、ブロッガー、SNS利用者向け内覧会についてです。こちらは、ブログやTwitterなどを利用している方々を招待しまして、情報発信していただくことを条件に、一足早くオープン前に見ていただくという内容でございます。

それから、(3)は漫画家向けの内覧会ということです。漫画家は、地方にいても原稿を送れば商売として成立するというので、結構多くの漫画家が札幌市内に住んでいらっしゃいます。前の市民動物園会議委員のいがらしゆみこさんも札幌市在住ですけれども、こういう市内にいらっしゃる漫画家の方を招いて、アジアゾーンを視察してもらいながら、その後、アジアゾーンで絵画教室をやっていただいたり、漫画家の執筆などへつなげていきたいということで、漫画家の方をお招きしての内覧会を予定しております。

最後に、大手企業の支店長クラス対象の内覧会です。こちらは、札幌にある大手企業の支店長クラスの方々を対象に内覧会を行いまして、支店の従業員や道外の家族の方へPRをしていただくということはもちろんのこと、企業のCSRの活動にもつなげていければというような思いを持ちまして、この内覧会を開催したいと考えております。

以上のようなPRを行いながら、一人でも多くの方にアジアゾーンをごらんいただけるように努めていきたいと考えています。

以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

ちょっとボリュームがありますけれども、アジアゾーンについてご質問等をお願いしたいと思います。

○牧野委員 1点いいですか。日糧製パンとのチラシ作成ということになっていますね。これが11月初旬完成ですね。この配布方法は、今、どのような形で考えていらっしゃるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 今、来園される方が手に取るガイドマップ、園内の地図には、アジアゾーンが予定としか入っておりません。それを補完する意味で、同じサイズのことを差し込んで、一緒にお渡ししたいと考えております。あとは、事前にとということであれば、PRイベント行ったりする中で配布をしていきたいと考えております。

○牧野委員 私は、たまたま、今、町内会の立場でお話をしているのですが、例えば、町内のPRにちょっと使いたいということであれば、それは別個にそれらにご連絡すれば、それは可能ですか。

○事務局（影山経営管理課長） はい。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

学校などには配ったりするのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 小学生以下は動物園だよりを配布しております。

○金子委員長 中学校、高校にはないのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 中学校は、クラスに1枚は行くようにしています。市立の高校もです。

○金子委員長 小学生は全員ですか。

○事務局（見上円山動物園長） 全生徒です。

○牧野委員 今度の配布は、12月12日ということですね、

○事務局（影山経営管理課長） はい。

○事務局（見上円山動物園長） 12月12日は水曜日ですので、恐らく学校はあるかと思えます。

○事務局（影山経営管理課長） これは、オープンの日に来なくてもいいかと思えます。

○金子委員長 土・日の方が多いですね。

ほかはいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子委員長 それでは、続きまして、3番の前会議における各委員からの意見についてです。

○事務局（見上円山動物園長） 私からご説明させていただきます。

前回の会議でいただきましたご意見のうち、その場でお答えできなかったもの、あるいは、その後の検討状況などにつきましてまとめたものでございます。

項目を大きく四つに分けておりました、まず一つ目は、イベントについてでございます。

いただいたご意見といたしましては、先ほどもちょっとお話しさせていただきましたけれども、アジアオープンイベントはいつ実施するのか、暖かいときにやった方がいいのではないかというようなご意見です。あるいは、アフリカウィーク、アジアウィークといったように、特定のゾーンにスポットを順に当ててニュースをみずからつくったらどうか、それから、動物との触れ合いなどの体験型のイベントを検討してほしい、ステッカーをつくり地下鉄の1車両に3枚ぐらいステッカーを張ってはどうか、シニア層が先生として主催できるワークショップなどを行ってみてはどうかといったご意見があったと思います。

これに対して、まず、アジアゾーンの関係ですが、これも先ほどご説明させていただきましたけれども、12月12日にオープンです。熱帯雨林館の屋外放飼場は、冬期間は閉鎖となりますので、グランドオープンということで、来春に実施したいと考えております。

また、グランドオープンのイベントに合わせて、アジアの食、文化にスポットを当てることによって、アジアウィークではないですけれども、アジアを連想させるイベントとしてやってみたいと考えております。その経過も踏まえながら、今後、ほかのものにも広げていきたいと考えております。

それから、動物とのふれあいの関係でございますけれども、これは、いただきましたご意見を踏まえまして、秋まつりで実施いたしました。餌やり体験つきの動物ガイドというものを実施したところでございますけれども、来園されたお客様からは大変ご好評をいただいたところでございます。現在、ドキドキ体験というものがございますけれども、これにおいて、動物とのふれあいなどの参加型のイベントの拡充を検討しております。

なお、羊は3頭から6頭に増やしたところであります。この辺も使いながら充実を図ってまいりたいと考えております。

それから、地下鉄ステッカーの関係でございます。地下鉄の関連ステッカーではございませんけれども、東西線等のホームの電照広告を10カ所増やしたところでございます。

それから、これも先ほどご説明させていただきましたけれども、アジアゾーンオープンのポスターを地下鉄の駅構内に掲出する予定でございます。

それから、ワークショップの関係ですけれども、さまざまなイベントに組み込んで実施することができないかどうか、検討しているところでございます。

それから、項目の大きく二つ目の広報についてでございます。Twitter、Facebookを開始するのか、は虫類・両生類館をもっとPRをすれば集客につながるのではないかというようなご意見がございました。これにつきましては、現在、検討会議を設置しまして、そこで検討しているところでございます。具体的に検討を進めているところでございますけれども、今後、紙ベースも含めて、SNSなどいろいろなメディアを使って、は虫類・両生類館を含めて動物園の魅力がさらに多くの人に伝わるように発信していきたいというふうに考えております。

それから、三つ目の企業誘致、誘客の部分です。企業のCSR活動を誘致するアイデア

はあるのか、ツアー客の誘致は行わないのか、子どもの誘致のために学校向けにPRすることはないのかといったご意見でございましたけれども、イベントを初め、さまざまな事業につきましては、個別に企業協賛をいただいて実施しているところでございます。現在、ちょっとおこなっているのですが、営業用のパンフレットをつくってございまして、これを活用しながらさらにPR、営業をしていきたいと考えてございます。

それから、なお書きのところは、先ほど申し上げた支店長クラスの内覧会です。このようなものを予定しているところでございます。ここには記載しておりませんが、動物園のホームページに、これまでの企業と連携した取り組みなどを紹介して、それを企業の方に見ていただければ、こんなこともできるのだ、うちの会社ではこんなことができるのではないかと、逆に提案をいただく形を、情報としてホームページを使って、これまでの取り組みなども紹介していきたいと考えております。

それから、区分の四つ目として、園内施設の充実でございます。写真スポットをつくって、写真を貼るアルバムのようなものをつくってはどうか、動物園内でオリエンテーリングなどを実施してはどうかといったご意見でございましたけれども、これも、この4月に、フクロウとタカの森の隣にフォトスポットというものを開設したところでございまして、無料のシャッターサービスなども行ってございます。これも、来園されるお客様からは好評をいただいているところでございます。

それから、オリエンテーリングということでは、夏の間は、スタンプラリーみたいなものを作ってございますし、各イベントごとにもスタンプラリーを実施しているところでございます。今後は、その充実も含めてさらに検討していきたいと考えてございます。資料3の説明につきましては以上です。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、資料3につきまして何かございますでしょうか。

○高井副委員長 スタンプラリーを既にやっているのであれば、ひょっとしたら、先ほど言った市場調査みたいなものを、ちょっと工夫するだけでできると思うのです。

例えば、スタンプを地図に押すのではなくて、行った順に押すようにさせて、かつ、スタンプのカラーを30分置きや1時間置きに変えたりすれば、来園者が一体どの順序で、何分ずつ滞在しているかということがわかると思います。恐らく、ローコストで、30分に1回、あるいは、1時間に1回インクを取りかえるだけで1日の来園者の動きを全部把握できると。あくまでもアイデアですけども、もし、既にあるものがあるのだったら、ローコストでやれる工夫が幾つもあるような気がします。

○金子委員長 そうですね。そういうものはお金が余りかからないですね。

○高井副委員長 30分か1時間で、スタンプのインクの色を変えるだけで多分できると思います。

○金子委員長 ちょっと手間だけかかりますね。

○高井副委員長 しかも、毎日やる必要はありません。

○金子委員長　そうですね。期間を決めて、そういうことも検討いただければと思います。ほかはいかかでしょうか。

僕の方からですが、広報の検討会議というのは、動物園の中の職員の検討会議ということですか。

○事務局（見上円山動物園長）　そうです。

○事務局（影山経営管理課長）　やったけれども、手に負えないというか、途中でやめるとか、職員の負担がかかるとか、そういうことがないように、やっぱり継続してやっていくことが大切だと思っております。そういう意味で、運用上の問題がないかどうかを事前にきちんと整理したり、ほかの動物園や札幌市内部でも運用しているところの問題点をきちんと確認したりしながら進めていきたいというふうに考えて、検討会議を設置して検討しているところです。

○松浦委員　地下歩行空間とか、パネル展とか、大型スーパーなどにマルヤマンが行くとか、それに職員の人がついていくのですか。映像だけ行ってしまってもだめなのだろうと思ったのです。

○事務局（影山経営管理課長）　マルヤマンショーは、マルヤマンというキャラクターのきぐるみの中に職員が入って、一緒に踊る人もついて行きます。

○松浦委員　それは動物園の職員なのですか。

○事務局（影山経営管理課長）　はい。

そして、動物の標本なども持っていきまして、例えば、象の歯とか、キリンのしっぽとか、動物の標本を持って行って、動物園のよさも伝えたりしながら、アジアゾーンにぜひ来てくださいという形で宣伝をしていくというイベントです。

○松浦委員　今、話すべきではないと思ったのですけれども、そういうときに、ボランティアやシニアの人的配置を計画すると、やりたがっている人がいっぱいいるのではないかとちょっと思ったのです。だから、職員の皆さんのご負担を軽減しつつ、派手にPRするということが必要かなと思いました。

○高井副委員長　今、松浦委員がおっしゃったことは、会議が始まる前に原田顧問とお話ししていたのですが、学生サークルでもこういうものを喜びそうな人はたくさんいます。お金も取らずやってくれるものがあるかもしれないから、何かうまく巻き込むと、コストが少なくなると思います。市の職員がみずから出ていくというのはすごいコストです。しかも、イベントに参加することで、その人たちがまた動物園の味方というか、応援団みたいになって、自分たちが育てたアジアゾーンみたいな感じになってくれば、さらに普及効果があるような気がします。

○金子委員長　ほかはいかがでしょうか。

この議題が終わってしまうと、あとは新着動物とその他ということですか。

○事務局（見上円山動物園長）　はい。

○金子委員長　早く終わってしまいそうなので、この機会に何かありませんか。

○野村委員 写真のことなのですけれども、夏に、シロクマと写るといものがありましたね。あれは、このフクロウとタカの森の隣のところとは違いますか。

○事務局（見上円山動物園長） いえ、そのことを言っています。

○野村委員 この間、来たときに、割と撮る方がいらっしやなくて、すごく誘っていらしたのですけれども、ちょっと遠巻きに通った方が、1枚幾らだろうねと言っていました。温泉などに行くと、撮って1枚幾らというものがありますね。ちょっと、そういうふうに誤解されて通り過ぎた方がいらっしやいました。

○金子委員長 今、無料なのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 有料なのですけれども、無料のシャッターサービスもしますということです。基本的には、設置者が設置費用を負担して、有料で写真サービスをするということなのです。

○野村委員 私は、てっきり、あそこに行って、自分の持ってきたカメラでということかと思いました。それもやってらっしやるのですね。そのスポットだとばかり思っていたのです。

○事務局（影山経営管理課長） 両方なのです。

○金子委員長 では、無料と書いてしまったら、みんな無料だと思ってしまうですね。難しいですね。

○野村委員 私が行ったときは、割と近づかない人が多かったのです。ずっと通り過ぎる感じだったので、気軽な写真撮影スポットというふうには見えませんでした。あそこに近寄ったら、お金を取られるというにおいがしていました。

○松浦委員 その収益金は、設置した企業が取るのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 基本的にはそうです。

○松浦委員 もとを取るといことですか。

○事務局（見上円山動物園長） 製作費ですね。

○野村委員 シロクマと一緒に写せるように見えたのです。

○松浦委員 それは、相当高いのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 1,000円です。

○松浦委員 写真が1,000円ですか。お高いですね。

○事務局（見上円山動物園長） 写真を台紙に入れてお渡しするもので、それを組み立てると、フォトスタンドにもなるというような台紙になっていまして、例えば、旅行で来たりすると、いい記念にはなるのではないかと思います。

○松浦委員 石川委員だったら撮りますか。

○石川委員 自分のカメラで撮ってもらいと、家族全員も入れるので、撮ってくれるのです。その間に、プロが、自分たちのカメラですぐ撮って、私たちがカメラをしまう間にもうプリントアウトして、ここにでき上がっていますよと言って、幾らですかと聞くと、1,000円ですと。そこで初めて値段がわかるようなシステムなのです。

- 事務局（見上円山動物園長） 表示はしていますけれども……。
- 石川委員 1,000円というのは余り……。
- 野村委員 私は、全く見ないで通り過ぎていました。だから、わざわざ人まで張りついて写してくれるのに、高いんじゃないのと言いながら通り過ぎようと言っている人に、声をかけたのです。いや、ただですよと言いそうになったのですけれども、ただではなかったのですね。
- 石川委員 自分のカメラで撮ればただです。1,000円ででき上がったものを、結構ですと断る勇気があれば……。
- 橋本委員 温泉で撮られる写真と同じですね。
- 事務局（影山経営管理課長） 市内で、テレビ塔などでも運用しています。
- 金子委員長 この際ですから、いろいろアイデアをいただきたいと思います。
- 野村委員 この間、この写真スポットは私が言ったのですけれども、私がお願いしたかったのは、さっとただで、ぜひ撮りたいという感じのものですね。
- 松浦委員 時計台のところにいるおじさんたちが撮ってくれますね。シャッターマンの人たちですね。ああいうものだと感じがいいのですけれども、基本的に、動物園でお金を取るというのは、余り好感を持ってませんね。
- 事務局（二木みどり環境担当局長） 時計台でシャッターマンをしているのは、実は札幌市の部長職なのです。ボランティアなのです。
- 事務局（見上円山動物園長） 私も行きました。
- 松浦委員 それは、どういう時間帯に行くのですか。
- 事務局（見上円山動物園長） 午前と午後に分かれていて、交代でしています。
- 野村委員 平日の時計台の前にいらっしゃいますね。
- 事務局（見上円山動物園長） あれは時計台のボランティアです。
- 松浦委員 部長職が行かなくてもいいような気がしますけれどもね。
- 事務局（影山経営管理課長） ボランティアですから、いいのではないのでしょうか。
- 松浦委員 そういう人も、動物園に来ていただきたいです。お金が1,000円というのは、入園料と比して、非常に違和感を感じました。
- 事務局（影山経営管理課長） それは、食堂でご飯を食べるようなものとどのように違うのでしょうか。
- 松浦委員 それは消化しますもの。
- 野村委員 もう少しわかりやすくするとすれば、料金がかかるということはわかりやすく書いて、プラス、自分で写すのはただですよというのは、もうちょっとわかりやすい方がいいかもしれません。私が余りよく見ないで通ったから、きっと書いてあったのでしょうけれども、お金がかかるということに気がつかなかったです。
- 事務局（見上円山動物園長） 表示方法は、もう少し工夫するようにします。
- 野村委員 そうじゃないと、気の弱い人は、撮られてしまったからしょうがなく買った

ということもあると思います。もちろん、そこが業者のねらいなのでしょうけれども、もしかしたら、買っちゃったと思うかもしれません。悪いサービスではないと思うのですけれども、はっきりわかった方がいいような気がします。

○事務局（見上円山動物園長） わかりやすくということですね。

○野村委員 きっと、それでも写したい人もいらっしゃると思うのです。

○松浦委員 ここでなければ発言できないことかもしれませんが、たまたま新聞を見ていたら、象の花子の鼻が新聞に写っていました。私はすごいびっくり仰天したのです。PRにキリンのしっぽも持っていくと先ほどおっしゃっていて、それはPRになるのでしょうかと思ったのです。私は、物すごい違和感と憎悪感を持ちました。鼻だけ持ってかれるのかと思いました。私は、象の花子を愛していますから、鼻だけぶちっと切って剥製にしているなんて信じられなくて、私は非常に感じが悪かったです。

皆さん、動物園に、こんなしっぽもありますよ、鼻もありますよといって、誘致に使うというのは、ちょっと気がしれないのですけれども、感覚的にどうでしょうか。動物園はそういう感じかしらと思ってしまって、私はその新聞記事は非常にびっくりしました。

○野村委員 その記事をちょっと読んでいないので、私はわかりません。

○松浦委員 PRなのでしょうけれども、何でもPRに使うのはどうかと思います。命あつての花子だったはずが、鼻だけ切り離されて、こんな感じなのかと思ったのです。

○野村委員 牙だけなら……。

○松浦委員 私は、個人的に、象の花子が骨になっているのも気に要らないのですけれども、とりあえず、あれは、むしろ憎悪を感じる人もいるぞということ……。

○石川委員 ただ、説明するときに、牙一つでも、何か一つでも、実際にさわれるものがあると、すごくリアルだと思います。実際に、キリンのしっぽはさわれないですね。だから、実際に触れられるもので、レプリカではないというものがあると、私たちが説明するときに、サメの歯も、こんなにぎざぎざで、こんなにとがっているのだという感じで、私はどちらかというに興味があります。

○野村委員 しっぽというのは、どういうことですか。

○事務局（見上円山動物園長） しっぽは毛だけです。

○松浦委員 象のうんちだったら面白いのですよ。こんな大きいものというのだったらすごく楽しいと思うけれども、鼻が出てきたので、私はちょっと違和感を感じますね。

○野村委員 私の感覚だと、毛と牙と鼻はちょっと違います。毛だったら、人間でも子どもの毛を筆にするし、痛みがないけれども、鼻は、ちょっとだめな人は多いかもしれません。

○松浦委員 たまたま、鼻の記事を見たからそう思ったのですけれども、結局、人が動物園に対してどういう感じを持っているのか、命としての動物園というのが私はすごく大きいかもしれません。生き生きと生きていたとか、私はむしろ、あそこの慰霊碑にみんなが足を運ぶようなコースに誘導するような、ここで亡くなったたくさんの動物たちにお花

を飾っていたりしますね。ああいうものを伝えていくのも大きな仕事だと思います。だから、珍しいものがあるぞということだけが表面に出ていくのは、ちょっと気になりました。一つの意見だと思って、検討していただければと思います。

○高井副委員長 今の松浦委員のお話とはちょっとずれるかもしれませんが、私は、パリに7年住んでいたのですけれども、一番有名な観光名所にパリのポンピドゥー美術館というところがあります。そこで、動物の絵をかくというワークショップがあって、そこで何をやったかという、生きた豚を美術館の1階のロビーに放して、絵をかかせるのです。

今、象の話でいくと、豚というと、今、丸を書いて、そこにもう一個丸を書いて点々とするというふうな、そういうものが子どもの間に普及しているけれども、実際に食べる豚を見ると、物すごく巨大で、臭くて、大きくて迫力があるわけです。それをやったのがポンピドゥー美術館での動物の展示だったし、僕は、動物園の持つパワーはそこではないかと思うのです。象といったら、とりあえず大きな耳をかいて、ダンボの絵みたいな感じの漫画ではなくて、こんな大きい鼻なのだ、あるいは、そこに毛が生えていて、しわがついているのだよということを伝えるのは動物園のすごく大切な役割だと思うのです。

松浦委員の言っていることは、命に対する大切さも教えなければいけないというお話だと思うのですけれども、同時に、漫画化されている子どもたち、アニメ化されている子どもたちに、リアルな動物を現場から発信するという試み自体は高く評価したいし、それで不快感を持つ人がいたら、あっ、しまったと言って、そこであきらめて別のものにかえたりするというような、チャレンジ精神はむしろ勧めたいと思うのです。

だから、手をかえ、品をかえやってみて、うわっ、何でこんなひどいことをするのかと言われたら、その時点で引く、次にまた別のものを試してみる、そういうトライ・アンド・エラーはいいのではないかと私は思いました。

○事務局（影山経営管理課長） 新聞に出た日に、一、二件、不快だったというご意見も実際にいただきました。それを多いと見るか、少ないと見るかだと思うのですけれども、一、二件あったのは事実です。

○松浦委員 うれしいです。

○小山委員 そもそも、花子の標本というのは何のためにできたのですか。

○野村委員 鼻だけですか。

○事務局（見上円山動物園長） 鼻だけです。

○事務局（柴田飼育展示課長） 鼻は、皮膚だけで、中はもちろんウレタンなどが入っていますけれども、基本は、動物施設の中で、飼育員がその生態などを子どもを中心として説明するのに使う教材で、そのほかには、シカの角とか、抜けた歯とか、先ほどお話がありましたキリンの抜けた毛を飼育員が一本一本拾って束ねたものなどですね。今までは、特別なときに、夜の動物園のときなどにまとめて紹介するということは、教育プログラムとしてやってきたところなんです。そのときには、どんな動物であって、何年生きたかという話も含めて、飼育員の方でさせていただきました。

- 事務局（影山経営管理課長） そのイベントのPRに持っていったということです。
- 野村委員 見た反応はどうだったのですか。実際にPRで行って、見られた方の反応はよかったですか。
- 事務局（影山経営管理課長） 動物園に来られた方の反応ですか。
- 野村委員 それを実際のPRに持っていったのですね。
- 事務局（影山経営管理課長） それは、記者レクということで、報道の皆様には。
- 野村委員 報道の人だけが見たのですね。
- 事務局（影山経営管理課長） そうです。
- 野村委員 実際に、子どもや普通の方には見せていないのですね。
- 事務局（影山経営管理課長） 動物園でしか見せていません。
- 野村委員 では、一般の方の反応はまだわからないのですね。
- 事務局（影山経営管理課長） 特に、不快だという意見はなかったです。
- 小山委員 骨格標本などは結構つくっていますか。
- 事務局（影山経営管理課長） 象の花子の骨格標本は動物園に展示しています。
- 金子委員長 やはり、そういう教育とか研究というところは難しいですね。昔はよく、昆虫採集をして標本をつくるのがいいか、悪いかという議論もありました。結局、とって、殺して、飾りにしているわけですからね。また、動物園の場合は、どうしても名前をつけて、ペットのようにしてかわいがるという部分もあると思うのです。そうになると、死んだからといって、また人前にさらしてというのはどうなのかというところもあるような気がします。
- 野村委員 論理的ではないと思うのですけれども、例えば、オオカミが標本になってあるのと、象の鼻が標本になってあるのと、何が違うのかと言われると、違わないけれども、きっと象の鼻だけを見た方がおおっと思うと思うのです。生々しさがですね。見てないので何とも言えないのですけれども、なぜオオカミがよくて象がだめかと言われたら言えないですね。だから、いいとも悪いとも言えないけれども、やはり、その部分だけ、特に鼻がかわいくこうやって動くところだけがというと、松浦委員みたいに、思い入れがなくても、えっと思う人はいると思います。
- 松浦委員 余り感じのいいものではないことは確かですよ。
- 野村委員 ですから、牙としっぽと毛とは同じレベルでは感じませんね。
- 松浦委員 感覚の問題ですね。皆さんは動物園にずっといらっしゃるから、あれっと思うかもしれませんが、私たちにとっては、非常に違和感を感じました。チャレンジしてもいいですし、学術的に大事なものだということはよくわかります。だから、全部の市民に見せるようなものではないと思います。そこら辺は、精査しなければならない事柄だと思いますし、何でもいから見せてしまえということではないと思います。
- 原田顧問 とても大事なところではないかと思うのです。私が、この市民動物園会議にかかわっていたころに、オオワシのバーサンという長生きしたワシがいたのです。それを、

とても若いころから好きで、動物園にずっと通っていたおばあさんが、私の友達のお母さんだったのです。あれが好きでねと言うのです。それで、車でここに来ては、バーちゃん元気だよということで、随分親しんでいらしたらしいのです。あのオオワシが死んで、羽を広げた形であそこで展示がありましたね。そうすると、その娘のお母さんがすごく愛したオオワシだったのですけれども、ここに来ては、自分の母親のことを思い出して、ここに来ると自分の母親のことを思い出せるということで、よくこちらに来ていたようです。

つまり、人間自身だったら、そこにおばあさんをさらけ出すということはありませんけれども、自分の母親を思い出す機会として、うちのばあちゃんはあるところによく来たんだよと、偲ぶという行動がそこで生まれているのです。これも、とっても大事なことはないかと思うのです。

ですから、サンプルとして、物として見せるという問題だけではなくて、あのときの花子の鼻の振り方がかわいかったのだというふうに、多くの人が、鼻ばかりではありませんけれども、あの歩き方がゆっくりしていてねとか、足の前を一生懸命かいて、いら立っていた、死ぬ前にはそういう行動を随分とっていたのです。そういうこともみんなの記憶の中に残っているのではないかということで、全部を剥製にして残そうということを私はこの市民動物園会議の中で聞いていたのです。

やっぱり、みんながあれを見たがっているのだと、骨であっても見たがっているのだという、それくらいに思い込んでいるのです。ただ、動物が死んだということではなくて、死んだ残骸ということではなくて、花子を偲ぶ、それが動物園なのではないかと私は思うのです。

ですから、新聞記者に見せて、その写真がただ載ったということになると、これは何なのだという感じがあるかもしれませんが、あそこで剥製を見るというのは、花子を偲ぶという行動のあらわれというふうに思うのです。私は、動物園は、基本的に考えてやられているのではないかと思いますし、そうであるべきだと思うのです。ですから、余り違った見せ方をしない方がいいのではないかと一方で思いますし、片一方では、その姿を生きていたときのかわいい姿を偲んでいる。そういうのは、動物園の見せ方として大切なことなのではないかと私は思います。

○金子委員長 どうもありがとうございました。

○高井副委員長 原田顧問にまとめていただいてよかったのですが、松浦委員と野村委員と原田顧問は、ちょっとずつ意見が違うところがあって、でも共通点もあるのです。ちょっとずつ違うところは、松浦委員は、生きものなのだから、生きていたときに尊んで、死んだ姿までさらすべきではないというお立場だと思います。原田顧問は、逆に死んだ後もまた人の心の中に生き続けるのだというところをおっしゃっていて、野村委員は、剥製とちよん切った鼻とは違うという、剥製といっても、ちよん切るか、ちよん切らないかというところをおっしゃっているのです。ただ、共通点というのは、生命に対する尊敬みたいなものがそこに込められているかということではないかだと思います。

これは、博物館学ではすごく普遍的なテーマで、国立科学博物館にも弥生人などの人体標本が公開されていて、そこに、物すごく長文の説明が書かれています。これは、我々の先祖であり、皆さんの祖先に当たる尊敬すべきご遺体である。しかし、これをこう見せることがまた我々の日本人のルーツを知るために非常に重要な貢献である。我々は、議論の結果、これを展示することに決めたと。言葉は不正確かもしれませんが、博物館の人たちの非常に繊細な命に対するリスペクトが伝わってくるようなものを行った上で、論争になることを承知で見せるということをあえてされているわけです。

ですから、よくわからないですけども、共通点で言うと、鼻が出ただけで、それがだめかどうかという問題ではなくて、コンテキストといいますか、そこにどれくらいリスペクトしながらやっているのかという部分ではないかと思うのです。論争自体はすごく重要なことで、どこが限界点なのかということは、正直に言って、やってみなければわかりませんし、市民の声を聞いてみなければわからないという実験のところではないかと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

多分、まだいろいろご議論もあろうかと思えますけれども、今、原田顧問がおっしゃったように、本当に大切なことかと思えます。

そのほか、ご意見やご要望はいかがでしょうか。

○松浦委員 この機会なので、申し上げます。

どなたか亡くなった市民の方がご寄贈になった話があって、とてもよい話だし、また、その方のご冥福を祈る気持ちにもなりました。というふうに、思い入れを動物園に込めていっておられる方がいるのだなということがわかりました。

一方、私は、何十年も動物園に来ていると、あれっ、あのおじいさんはどうしたのだと思う人もいますし、チンパンジーのところのおばさんたちがいますね。ほかにもいるのではないですか。私は何人かの方々に気がついていました。だけれども、子どもを連れて歩いていると、怖いのです。必ず、そのおじさんが、マントヒヒのところに朝早くからいるわけですから、オタクと言うのですか、それくらい入れ込んでいる方がいるのですが、このごろは見えないですね。だから、どうしたのかなという気にはなるのです。

割と最近ですが、チンパンジーのところに、物すごく物知りのおばさんたちがいました。まるで自分が飼っているようなお話でした。しかし、それがちょっと怖かったのです。気がついていらっしゃいますか。

飼育員のあの人がこういうふうに言ったからあそこの窓を開けたのだよとかね。余りにもそういうことを声高に話していて、とてもとても入りにくかったです。チンパンジーの館の終業近くですから、みんなは中に入っていました。そういうところで、五、六人のおばさんがすごい勢いでしゃべっていました。

私はおばさんだから怖くないのですけれども、すごいなと思いました。ですから、ああいう人たちを、かえって、こういうボランティアというパワーにかえていくのはどうでし

ようか。物すごく好きなのだと思うのです。

○野村委員 いつもいらっしゃるのですか。

○松浦委員 恐らく、そうです。

きのうまで、この縛り方をほどくことができなかつたのに、きょうはほどけるみたいなことを全部知っているのです。前はこれができなかつたとかね。だから、市民として動物を愛して、その子のことを全部知っていて、そのことを披露したくてたまらない人たちがかたまっています。ですから、むしろ、そういうおばさんパワーを、ボランティアになってくれませんかとか、うまく活用して力にしていってはどうかと思います。毎朝来ているおじさんもいますね。

○野村委員 それは、かかわるのが難しいのではないですか。

○松浦委員 彼女たちは、趣味で来ているだろうし、好きなのだと思うのですけれども…

○野村委員 松浦委員が怖いと思われるのですから、やはり怖いですよ。それに公的な動物園としてかかわっていくのは、とても厄介な者を引き込むかもしれないから、そっとしておいた方がいいような気がします。

○松浦委員 結局、そういうのをどう考えていますかと本当は言いたかったのです。

○事務局（見上円山動物園長） 私たちから見ると、毎日のように動物園にご来園いただいているお客様の一人でもありますし、動物園のファンだと思うのです。たまたま、特定のチンパンジーとか、特定の動物が好きだけなのかもしれませんし、思い入れがあるのかもしれませんけれども、あくまでもお客様です。常連の方から、いい情報、悪い情報、いろいろあるかもしれませんけれども、ほかのお客様もそういった情報を聞けたり、ふだんの動物の様子はこんなのだということも聞けたりするので、決してすべてが悪いということではないと思うのです。

先ほどのボランティアの話も、実際にボランティアを公募したら、毎日のように来ていただいていた方も実際に、今ボランティアとして活動していただいている方もいらっしゃいます。ですから、積極的に……

○松浦委員 ですから、私は、これはまずいぞ、ほかの人に威圧感を与えるような見方というのは非常に感じが悪いです。入りにくいですし、独占している雰囲気でした。本当は、私が動物園長だったら、ご注意申し上げます。しかし、そうではなくて、ご注意しないでその人たちをパワーにしていくとしたら、そんなに詳しいのなら来館の人に語りかけてくださいとか、自分たちでああだね、こうだねと言っているのではなくて、来たお客さんに、この子の名前はこんなのですよと教えてあげてくださいというような誘導をして、その人たちをよい方に成長させていくというか、そういう配慮をしたら、この方たちの動物が大好きだという気持ちをよい方にできるのではないかと、そのときに非常に強く感じました。そういえば、ああいう人もいた、こういう人もいたと思い出して、遺産まで残すぐらいの方もいるわけですから、いい方向に変えられないのかと非常に考えたのです。これは、ま

ずいという感じでした。

○金子委員長　そういうボランティアの力は、僕がかかわっている環境関係では、ボランティアでやりますという人がすごくいるのです。そういうパワーはうまく使っていただくような、そういうアイデアを出していただければと思います。

この市民動物園会議も、みずから応募されて来られた方がいっぱいいるわけですから、ここの場も同じように、何かお手伝いをすることがあれば、それは動物園側からどんどんどんどん言っていただいて、みずからお手伝いしますという方たちだと思いますから、ぜひお話をいただければと思います。

ついでとっては何ですか、広報活動についても、SNSなどの情報発信についても、中山委員がお休みなので残念ですが、中山委員がまさにこういうお仕事をされていて、ボランティアでも私はやりますよとこの間も言われていましたからね。お金もそんなにかかることではないので、ぜひ、どんどん進めていただければと思います。

特に、TwitterとかFacebookというのは、できているところにただ入れるだけですから、全く簡単にできてしまうので、できれば、アジアゾーンがオープンする前ぐらいには合わせてできるような形で進めていただければと思います。

○野村委員　済みません。もう一点いいですか。

エゾモモンガなどにしつこくて申し訳ないのですけれども、この間も東京から友人がまた来て、エゾモモンガが見たいと言って2回振られて、3回目でやっと思ったのです。しかし、ほとんど中にいるからエゾモモンガの姿は見られないのです。ほとんど見ることはできないのですね。

○石川委員　見ることができる時間帯は決まっているのです。人のいないときです。朝の早い時間ですね。

○野村委員　でも、それは、見られるときにはいないのですね。

○石川委員　私は何回も見ました。ぱっと10人ぐらいが来てしまうと、だめなのです。静かじゃないとだめなのです。

○野村委員　しばらくあの中にいたのですけれども、これはもしかして見る事ができない展示なのだろうかとちょっと思いました。

○石川委員　いないときは、どんなに待っても出てこないのです。

○野村委員　そのときにちょっと思ったのが、そこにエゾリスもいるのですけれども、今1匹しかいないのです。そして、エゾリスを待っている人が結構いたのです。でも、あれは捕まえてきてというわけにはいかないのですね。では、1匹だと繁殖はしないわけですか。

○事務局（柴田飼育展示課長）　今、バックヤードで繁殖が進んでおります。

○野村委員　結構人が、しばらくいて、かなり頑張っ待っても見えなくて帰っていくので、エゾリスぐらいならどうなのだろうと思ったのです。

○事務局（柴田飼育展示課長）　そうですね。展示の仕方も工夫します。余りお客様にな

れ過ぎますと、お客様についていってしまうこともあるので、ちょっと気をつけながら人になれさせない個体だけを、今ちょっと出しているのです。

○野村委員 何しろ、それが見たくて来るものですから、毎日がっかりして帰るのです。

○松浦委員 山に行ったほうがいいのではないですか。

○野村委員 そうなのです。山に登ったときに1匹見えたのですけれども、そういう方が結構いらっしゃるのではないかと思います。

あと、ゴーヤのみどりのカーテンが夏に随分ありましたが、あれは暑さ対策でやられているのでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） 床がコンクリートなので、足が熱くなってしまうのです。

○野村委員 すごく立派でした。

○松浦委員 すごく感じがよくて、すてきでした。あれは、どなたがやるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 企業のご協力、ご協賛をいただいています。

○野村委員 見る側としては、展示には若干邪魔ですけれども、とてもきれいですね。

○松浦委員 ああいうものも、エコだと思います。

○野村委員 あそこに動物たちが、わかるにはわかると思うのですけれども、日差しをよけてうれしいみたいなことがちょっと一言あればいいと思いますが、ありましたか。

○事務局（柴田飼育展示課長） うれしいはなかったと思います。

○野村委員 うれしいはないですか。とてもきれいでした。

○橋本委員 全然違う視点で1点質問させていただきたいと思います。協賛企業がありますね。ホームページを見ると、えさ代が二十何万幾らで、個人的にも野菜をくれたとか、そして、見てみると、いつも同じ人だったり、あるいは、企業だと、コカコーラとか、三八ですね。これは、何か商品の販売をする関係で、販売するかわりに寄附するという形でやられているのですか。

○事務局（見上円山動物園長） そういう部分もありますけれども、それだけではありません。

○橋本委員 余りにも特定の企業なので、ちょっと気になったのです。逆に、そういうやり方もあるのだなと思ったものですから、今、質問しているのです。悪いことでも何でもないわけです。

○事務局（影山経営管理課長） 寄附なので強制はできないのですけれども、そのように申し出ていただいて、実際には売上の何パーセントという形で決まって寄附を入れていただいている企業も何社かあります。

○橋本委員 フリーというのであれば、強制に近いような気もしますけれども、それはそれでいいやり方で、片方で権利を与えているのだから、いいのではないかと感じて見たいというのが感想です。

ここから意見ですけれども、各委員からの意見のイベントの中でステッカーの話がありました。ステッカーだけがぼんととらまえられてしまいましたけれども、実は、私が言っ

たことで、いま一度確認させていただきたいし、お伝えしたいのです。

我々の商売も、スーパーカスタマーと、月に一度、二度来る普通のリピーターです。また、全く興味のない人をどのように引きずり入れるかという戦略というのは、大体三つに分かれるという話を前回も同じ話をしました。毎回、自分から、例えば、動物園の情報をみずから取りに行くような人は、完全なスーパーカスタマーですから、こんな言い方をしは失礼ですけれども、極端な話、放っておいても来てくれるのです。全く興味がない人は、あのときも話をしたのですが、F a c e b o o kをやろうが、T w i t t e rをやろうが、ホームページをやろうが、動物園の「ド」の字も頭に浮かんでない人には、どんな戦略を持っていても、興味のない人はしょうがないということであれば、最大の入園者をふやすのは、リピーターの人数、もしくは、リピートの回数をふやすことだろうという意見を言わせていただきます。

今回のように、アジアゾーン、あるいは、レッサーパンダの双子が生まれたというのは、ある意味、言葉はおかしいけれども、非常時なのです。非常時の場合は、だれでも興味を持ってくれるから、それはいいのですけれども、日常はどうするのだといったときに、C I戦略です。幸いにして、札幌市民は大体子どものときに学校の授業で1回や2回は円山動物園に必ず来ているわけですから、その円山動物園の円山ということを経験的に思い出すことが必要です。そういえば、あったな、また行ってみたいなということで、たまたま見上園長が前回は交通局にいらしたということを知ったのですから、そのネットワークで、ステッカーなどをC I戦略として、このイメージを持てば、この図案を見れば動物園のことを思い浮かべてくれて、そのうちまた行ってみたいなという一つの動機になるという意味で言ったということをご理解いただきたいと思います。

それから、二つ目です。

今回のアジアゾーンのPRイベントについてです。これも、対象者をどこに持ってくるのかということに一番興味があったのです。基本的に、これをずっと見ていくと、余り明確になっていないのかなと思うのですが、こういう場合は非常時ですから明確になっていなくてもいいと思うのですけれども、1点だけ、イベント事だけを見れば、これはほとんど札幌市内が対象なのだなということです。それであれば、道外や札幌市外の人に対しての考え方はどうなのかなということが一つです。それから、旭山動物園に旅行プランが組み立てられているようなものもありますが、そこまで視点を広げたときに、せっかくの非常時のいい時期をどのようにPRしていくかというところの視点がちょっと欠けているのかなという気がします。これは、私だけしか感じていないのかもしれませんが、何となく文字だけを見ると、札幌市内に限定されているのかなと思います。

ここからは、先ほど来、皆さんは協力と言っていますが、私も協力させていただくことが一つできたなと思っているのです。札幌商工会議所で観光ボランティアをやっています。これは、大通公園とかいろいろなところに、ボランティアでガイドをみずから望んでやる人たちが、毎日のように、旅行者に無料でPRして歩くのです。実は、これも旅行代理店

は大したものだと思うのですが、無料の我々のボランティアを旅行代理店の企画商品として販売しているのです。これはやり過ぎだと私はよく言っていますが、私も、その観光部会長をやっている、この間も、たまたまこの仕組みができて10年たったものですから、10周年ということで行ったのです。そうすると、観光ボランティアの人たちが130人か140人いるのですけれども、そういう人たちは、皆さん、札幌が好きなのです。そこに来ると人は、ほとんど札幌以外の人です。そういう人たちに、ぜひ、チラシだけではなくて、私がこのチラシの中で一番必要だと思っているのが、雪の円山動物園とか冬の円山動物園にスポットを当てたようなチラシをもっともっとつくっていただけないかと思うのです。全国から来た人で、冬の動物園というのは札幌と旭山動物園くらいですから、ここまで企画して冬に焦点を当てて運営しているところはそうそうないです。ですから、冬の動物園に焦点を当てたPRグッズをつくっていただければ、観光ボランティアの人たちにこれも配るようにと指示します。そうすると、1日に何十人も来ますし、年間何百人できかないです。ただ、冬だけでも来てくれればと思っています。中には、寄ってくれる人がいるし、こういった取り組みをやっているのだということが全国に広まっていく可能性があるんで、予算があればと。

今言った対象者は、最終的に道外の人に求めていく方法を、今、私は考えています。

こういうふうなお手伝いができますという説明でした。

○金子委員長 どうもありがとうございました。貴重なご意見やアイデアだと思います。

○小山委員 そういえば、隣の北海道神宮は、冬場、朝早くから台湾の観光客の定番になっているのです。あそこまで人が来ているのだから、冬は、ついでにここまで呼び込めばおもしろいかなと思います。台湾の人は喜ぶかもしれません。

○橋本委員 東京の人も含めて、雪の中の動物といたら、きっと喜ぶと思いますよ。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、だんだん盛り上がってきて、このまま続けたいところではあるのですけれども、時間が迫ってきましたので、次の4番の新着動物等について、説明をお願いしたいと思います。

○事務局（柴田飼育展示課長） 新着と出産の状況でございます。

6月4日にはエゾユキウサギの出産、6月8日にはエゾモモンガの出産、そしてこれまで展示しておりませんが、6月26日には、エゾリスが出産をしております、道産子動物が頑張ってくれたところです。7月19日にはエゾヒグマの雄の大きが旭山動物園から入りまして、今、4歳のとわという雌と交代で展示をしております。この大きが大きくなれば、同居して繁殖まで目指したいと思っております。

エゾヒグマ館については、ことし、エゾヒグマのさまざまな問題があることから、非常に興味を持って見ていただいているようです。また、環境プログラムとしても、エゾヒグマと人との付き合い方といいますか、そういうことも含めて展示施設を活用した講座なども幾つか開かれているところです。

それから、7月20日に生まれましたシセンレッサーパンダ2頭ですが、2010年に生まれた双子のうち、1頭がまだ残っておりますので、父、母、双子と2010年に生まれた子どもと5頭の展示になっております。

それから、7月26日と書いてありますが、16日の間違いでございます。7月16日と8月2日に、スピングラーヤマガメがふ化をしております。これは、国内の動物園・水族館協会の加盟園館86園館で初めてのふ化になりました。は虫類・両生類館は、温度、湿度の管理ができる施設ということで運営できておりますので、その成果だと思えます。

それから、10月11日に、ドイツの動物園から、コツメカワウソの雌が来園しております。これは、アジアゾーンに展示をする予定で、今、動物病院で検疫中でございます。

主な転出動物、死亡動物ですけれども、10月22日にゼニガタアザラシの雌のさくらこが急性の出血性腸炎で死亡しております。また、記載はしていませんが、10月20日にキリンのナナスケ1歳が日本平動物園に旅立っております。

○金子委員長 ありがとうございます。

こちらについて、何かありますでしょうか。

○橋本委員 亡くなったときは、動物園内で簡単な葬式はやっているのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） そうですね。慰霊祭は全体で1年に1度やっています。また、死亡したら、必ず死亡報告というものを下させていただいております。

○橋本委員 どこに出ているのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 各動物舎にあります。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、最後に、その他ということで、何かありましたらお願いします。

○牧野委員 毎年やっている冬のフェスティバルは、例年どおり2月にやる予定で日程は決まっているのでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） 一応、雪まつりの期間に合わせてやろうと考えています。

○事務局（影山経営管理課長） 2月5日から11日です。またご協力をお願いすることになるかもしれませんが、よろしく願いいたします。

○橋本委員 去年もそういうものがありましたけれども、パンフレットはあるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） これからつくります。スノーフェスティバルですね。

○橋本委員 それだけのことを書いているのですか。それに動物のことは書いていないのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 細かいものは余り載っていないです。

○高井副委員長 そのときに、そこの協賛業者もこちらの造成の出入り業者ではないかという議論を、ちょうど橋本委員と同じようにしたところでした。

○金子委員長 事務局から、その他についてはございませんか。

○事務局（影山経営管理課長） 特にありません。

○金子委員長 それでは、いろいろご意見をありがとうございました。

これで、第16回市民動物園会議を終了させていただきたいと思います。

#### 4. 閉 会

○事務局（見上円山動物園長） 本日は、どうもありがとうございました。

これからいただいたご意見を検討させていただいて、来園者増に何とかつなげてまいりたいというふうに考えております。本当にありがとうございます。

今回の会議なのですが、先ほどちょっとお話ございましたが、スノーフェスティバルの直前あたりで予定をさせていただきます。皆様には、改めてご案内したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、お忙しいところをご出席いただきまして、まことにありがとうございました。

以 上